

# ドレッサージュホースに育てよう!

## 〽 オースミイレブンのセントジョージ賞典 〽 “しくじり” 競技会デビューレポート



今回は、当初予定していた記事の内容を変更して、3月に参加した競技会について詳しく解説したいと思います。

神奈川県津久井馬術競技場にて行われた競技会で、初めてオースミイレブンはFEI セントジョージ賞典に出場しました。2日間出場しましたが、結果は以下の通りです。

1日目 最終得点率 57.455%

2日目 最終得点率 58.859%

1日目は、内容がとても残念なものでした。私が競技に向けて立てたプランから、実際の競技で起こったことまで順を追って説明します。

### ◆ 事前に立てたプランとトレーニング内容

速歩運動をとにかく活発にするために、競技前の数週間のトレーニングは、弾発を生み出そうと活発な動きを求めていました。同時に、脚を積極的に使い、馬の気持ちも高くして、活発な速歩に対応できるような馬のメンタルを養っていくようにしていました。

駢歩運動は、バランスが前のめりにならず、アップヒル体勢になるように後躯を沈ませて、コレクションを求めながら各運動を行なって準備していました。

### ◆ 競技会直前準備運動

昨年末にSクラスに挑戦した時同様に、非常に馬が落ち着いていて、物見や緊張は見られませんでした。その状況で欲が出た私は、いつも以上に良い速歩を求めようと馬を強めに追い込み、弾発を派手に作り出そうとしました。

オースミイレブンは、それに一生懸命に応えようと動いてくれました。あとはハミの安定を図ろうと必死でしたが、苦手な右ハーフパスでは頭頸が上がってくるのを防ぎきれずにいました。

ピルーエットは上手く調整できていたため、ワーキングピルーエット左右1回ずつ、本番と同じピルーエットを左右1回ずつ実施するのみで準備ができました。

ここまでは順調に競技に臨める態勢ができていました。この後、あんなことが待っているとは思いませんでした……。

### ◆ 競技本番 (FEI セントジョージ賞典)

競技会では常に、馬の気持ちを頂点に持つていくことを心掛けています。テンションが上がってしまう馬に対してはその逆で、気持ちを落ち着かせ、リラックスさせるための運動を多く行います。オースミイレブンは調教が進むにつれて落ち着くようになってきたため、この日は強めの扶助を出した状態で本番を迎えることにしました。

#### ○ 入場

右手前駢歩は動きが大きく柔らかいが、左手前駢歩の方が収縮駢歩をさせやすいため、左手前駢歩で入場しました。しかし、異変はここから始まりました。準備運動では全く兆候がなかったのですが、入場するなり腰を高くして跳ねる仕草を見せ始めました。これは明らかに扶助に対する反抗です。なぜこのようなことになったかは明白で、準備運動で速歩の弾発を生み出すために行なった扶助が、馬へのプレッシャーとなっていたことが原因です。

#### ○ 速歩発進～伸長速歩へ

なんとか入場を切り抜け、敬礼後に速歩発進すると、準備運動よりも馬が鈍く重たく感じました。何度も競技会を経験すると馬も本番を理解しています。このままの動きだと6点ペースで、リズムが崩れれば5点を切るかもしれないという考えが頭をよぎりました。

そうして私が少し気負ったせいか扶助が強くなり、伸長速歩の最中にも後ろ肢を蹴り上げる仕草が出てしまい、リズムブレイクと反抗を取られました。

### ○ ショルダーインとハーフパス

「肩を内へ」と「ハーフパス」の運動は、馬の姿勢と角度などを正しく求めましたが、これ以上の馬からの反抗を恐れ、基本的な動きのペースを上げることができず、無難にやり過ごすことしかできませんでした。

### ○ 常歩区間（伸長常歩・収縮常歩・常歩ピルーエット）

常歩運動は、馬の緊張が最も表れやすい運動でもあります。サラブレッドは中間種の乗用馬たちと比べて、雄大に歩くことは得意ではなく、どうしてもピッチになりやすい傾向にあります。この日は既に馬にプレッシャーを与えてしまっていたために、いつもよりもリラックスさを欠き、短節な動きになってしまいました。



◀連続踏歩変換では、腰を高くして跳ね上げる動作が続いた

### ○ 駢歩区間（ハーフパス・ピルーエット・4歩および3歩連続踏歩変換・伸長駢歩）

駢歩運動での基本的な問題は、バランスが前のめりになってしまうことです。その最も注意すべきペースの体勢は、何とかキープできました。しかしここで、私の強い要求に対する馬のうっぷんが爆発しました。特に踏歩変換の際に「あなたの扶助は受け入れられないよ!」という意思の表れである「蹴り上げる」という行動が出てしまいました。これにより、駢歩ダブルハーフパス中の踏歩変換は2回とも、腰が高くなり緊張が表れて失敗してしまいました。

左ピルーエットでは、準備と体勢も良かったのですが、最後の1歩で扶助を弱くし過ぎたために、速歩に落ちてしまいました。とても大きな失敗です。

その後の4歩毎踏歩変換では、両後肢で蹴り上げる反抗をし、歩数もバラバラになってしまい、3歩毎も同様に大きく崩れてしまいました。その流れで、伸長駢歩でも勝手に踏歩変換してしまうミスをしました。

このように初めてのセントジョージ賞典は、ほろ苦いデビューというか、激辛デビューとなりました。これらを踏まえて、2日目に向けての解決策として、以下のように考えました。

- ・速歩の弾発を必要以上に求めず、要求度を下げてフラットな速歩にする。それにより、馬の緊張度合いを下げた扶助に対して従順にする。

- ・準備運動中に駢歩での踏歩変換を多く取り入れ、跳ね上げる仕草を消し去る。

2つ目の、踏歩変換での反抗を抑える方法は、2つありました。一つは、緊張する馬に対してリラックスするように楽な体勢をとりながら、なだめるように優しく乗る方法。もう一つは、踏歩変換の度に反抗しようとする動きを、強制的に抑え込むために強く座り、ケースによっては懲戒の意味もあり、もっと馬を丸くしてまとめて強く乗る、という選択肢です。準備運動しながら私が選択したのは後者で、案の定、前日のように踏歩変換で跳ね上げる仕草が見られたので、この方法を何度も行いました。その結果、準備運動の時点でオースミイレブンは、その日の私の扶助を受け入れる判断をしてくれました。

2日目のセントジョージ賞典は、速歩に弾発がないまま無難にこなし、駢歩運動はミスを最小限に留めることで精一杯でした。

この競技の翌週には、御殿場市馬術・スポーツセンターの競技会に参加しました。前週よりは馬を良い状態に持っていくことができ、点数も少し上がりました。

1日目 60.613%

2日目 59.999%

現在、上述の課題を克服するためのトレーニングをしています。特にどの競技会本番でも実践できなかった、速歩の弾発を生み出すこと、頭頸が緊張することなく、またハミ抵抗を示すことなく継続して動けるようにするトレーニングを行なっています。

ここにきて、まだまだ安定した基礎ができていないことが露呈し、基本の大切さを痛感しました。ハーフパス、ピルーエット、フライングチェンジ、それらの各運動項目ができるようになったとしても、最も重要で基本的な3種の歩法と透過性を伴った体勢、一定のリズムが全てのペースにあってこそ、それらの運動が成り立つということを再認識させられたと思います。日々基本に立ち帰りながら、次回の競技会出場に向けて準備を進めていきたいと思います。

今回は、今回感じた基本の見直し方と、ピアップフェに向けたハーフステップの方法についてまとめてみたいと思います。